

## 夏大豆の7月播種栽培

中澤芳則・異儀田和典・\*中村茂樹(九州農業試験場・\*農業研究センター)

Yoshinori NAKAZAWA, Kazunori IGITA and Shigeki NAKAMURA : Characteristics of Summer Soybean Sowed in July

九州地域の大豆は、夏大豆と秋大豆の2種類に大別される。近年、転換畑での大豆作が中心であるため、秋大豆が作付けされ、夏大豆はほとんど栽培されていない状況にある。夏大豆は、秋大豆と同様に播種しても栽培可能であるが、その場合の生育特性についてはあまり報告されていない。

本報告は、夏大豆を秋大豆と同様に7月に播種し、栽培した場合の収量その他の生育特性を調査したものである。

## 1. 材料及び方法

1985～'87年の3か年にわたり、夏大豆16～19品種・系統を供試材料とした。播種は4月と7月に行い、開花期・成熟期・主茎長・主茎節数・精粒重・百粒重について調査した。播種期・開花期・成熟期は、開花迄日数・結実日数・生育日数を算出するために調査した。施肥量・区制その他の耕種概要は第1表に示す。なお、7月播種の試験では、秋大豆早生品種アキシロメも比較として供試した。

第1表 耕種概要

区 分	4 月 播 種			7 月 播 種		
	1985	1986	1987	1985	1986	1987
試験年	1985	1986	1987	1985	1986	1987
播種期	4.18	4.17	4.16	7.12	7.10	7.15
施肥量 (kg/a)		N : 0.3 P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> : 1.0 K <sub>2</sub> O : 1.0		苦土石灰 : 10.0		
前作	エンバク 鉄込	キニア 鉄込	キニア 鉄込	全面全層施肥 エンバク 鉄込	ギニア 鉄込	イタリア ン刈取
区制	2～3			1本立		
栽植密度			60cm×15cm			
品種系統数	19	18	16	19	18	16

## 2. 結果及び考察

a 当たり精粒重：各試験別の供試品種・系統のa当たり精粒重の平均・最高・最低を第2表に示す。'86年4月播種の試験は株枯病が多発し、また、'87年7月播種の試験はイタリアン刈取跡で肥沃度が低く、全体に生育量不足となり、両試験とも低収であった。生育に障害が認められた両試験を除いて考えると、7月播種の夏大豆は、4月播種に比べ、平均で2～3割程度減収すると考えられた。しかし、7月播種の場合、60cm×15cm・1本立では全体の繁茂量が少なかったため、栽植密度を高めることで増収可能と考えられる。また、7月播種の場合にも4月播種と同様に品種・系統で精粒重に大きな差異が認められた。7月播種で多収を示した品種・系統を第3表に示す。'87年は前記のように生育量不足だったが、'85年及び'86年の試験結果より、秋大豆早生品種アキシロメに比し、70～100%(20～30kg/a)の精粒重を示した品種・系統もあった。7月播種で多収を示した品種・系統は4月播種のそれとは必ずしも一致しなかった。

第2表 試験別の精粒重

試験年	区 分	平均	最 高	最 低	アキシロメ参考
1985	4月播種	29.4	35.7	21.5	—
	7月播種	15.0	20.2	6.5	25.6
1986	4月播種	11.8	16.0	7.0	—
	7月播種	22.9	30.9	15.6	30.9
1987	4月播種	24.6	30.8	10.5	—
	7月播種	8.9	14.2	6.1	23.6

注) 単位: kg/a

第3表 7月播種で多収を示した品種・系統の精粒重

品 種 名	1985年	1986年	1987年	平均
コグネグイズ	20.2 (79)	29.1 (94)	14.2 (60)	21.2 (79)
九系S41号	18.4 (72)	30.9 (100)	14.0 (59)	21.1 (79)
九系S27号	17.6 (69)	24.4 (79)	11.7 (50)	17.9 (67)
九州101号	14.9 (58)	26.7 (86)	10.6 (45)	17.4 (65)
九系S37号	18.7 (73)	26.4 (85)	7.1 (30)	17.4 (65)
アキシロメ	25.6	30.9	23.6	26.7

注) ( )内は対アキシロメの精粒重%

百粒重：夏大豆は4月播種でも小粒のものが多く、7月播種ではさらに小粒であった。4月播種の全品種・系統の百粒重の平均は20g前後、7月播種のそれは15g前後であった。

生育日数・開花迄日数・結実日数：7月播種は4月播種に比し、生育日数が35日前後、開花迄日数が25日前後、結実日数が10日前後短縮した(第4表)。生育日数はアキシロメより20日以上短く、7月中旬播種で9月下旬～10月上旬に収穫可能であった。また、生育日数に占める結実日数の割合は7月播種が4月播種より高く、アキシロメに近い値であった。

主茎長・主茎節数：各試験別の主茎長及び主茎節数を第5表に示す。7月播種の主茎長は4月播種に比べ、かなり短くなっているが、主茎節数はあまり少なくなっていない。このことにより、7月播種では節間長が短くなっていると考えられ、密植した場合でも倒伏は少ないと考えられる。

第4表 生育日数・開花迄日数・結実日数

試験年	区 分	平均生育日数	平均開花迄日数	平均結実日数	アキシロメ参考
1985	4月播種	113	54	59	—
	7月播種	81	28	53	106,33,73
1986	4月播種	117	56	61	—
	7月播種	82	32	50	104,35,69
1987	4月播種	120	57	63	—
	7月播種	82	31	51	106,37,69

注) アキシロメ(参考)は、左より生育日数、開花迄日数、結実日数。

第5表 主茎長及び主茎節数

試験年	区 分	平均主茎長	平均主茎節数	アキシロメ
1985	4月播種	42cm	11.9	—
	7月播種	29	10.5	40,12.3
1986	4月播種	43	13.2	—
	7月播種	34	12.4	45,13.2
1987	4月播種	56	14.7	—
	7月播種	25	10.8	36,12.0

注) アキシロメ(参考)は、左より平均主茎長、平均主茎節数。